




○ 利用者別フィードバックでは、利用者の現在の状況およびその推移を確認することができます。



<データ解釈時の注意点>

以下の①～③は、データを解釈する際の注意点です。

- ① 指標の値及びその変化は、必ずしもケアや状態の良し悪しを反映するものではありません。
- ② 利用者の背景や利用目的、対象期間中に実施した取組、利用者毎の状況（入院があった、他のサービスを利用していた等）など、様々な要因が関連します。
- ③ 対象期間中に、利用者にとどのような変化があったか、どのような取組を実施したか等の状況も考慮しながら、本フィードバックの結果を解釈し、事業所におけるサービス改善に向けた検討の材料としてご活用ください。

利用者別フィードバックで示す状態の「変化」について

  は、状態が変化をしていること、  は状態が維持されていることを示しています。

 については良い方向への変化の可能性があります、  については必ずしも良い方向への変化とは言えない可能性があります。

事業所番号	: 9999999999	サービス	: サンプルサービス
集計時点	: 2022年4月	登録分	
事業所名称	: サンプル施設		
利用者番号	: 000010		

■ 低栄養状態のリスク・食生活状況等

実施日		3か月前 : 2022/1/5	直近 : 2022/4/5	変化
低栄養状態のリスクレベル		中	低	↑
身長		155.5	155.8	↗
体重		45	46	↗
3%以上の体重減少	/1ヶ月	有り	無し	↑
	/3ヶ月	無し	無し	→
	/6ヶ月	無し	無し	→
血清アルブミン値		4.1	4.2	↑
褥瘡		有り	無し	↑
栄養補給法	経口摂取	一部経口	経口のみ	↑
	経腸栄養法	有り	無し	↗
	静脈栄養法	有り	無し	↗
	嚥下調整食品の必要性	有り	無し	↗
	食事の形態	嚥下調整食3	嚥下調整食4	↑
	とろみ	薄い	無し	↑
食事摂取量	全体 (%)	90	100	↑
	主食 (%)	90	100	↑
	主菜 (%)	90	100	↑
	副菜 (%)	90	100	↑
摂取栄養量 必要栄養量	エネルギー (%)	90.5	97.7	↑
	たんぱく質 (%)	83.3	92.3	↑
提供栄養量 必要栄養量	エネルギー (%)	95.2	98.8	↑
	たんぱく質 (%)	91.7	96.9	↑
食事の留意事項の有無		有り	無し	↗
本人の意欲		よい	まあよい	↓
食欲・食事の満足感		大いにある	ややある	↓
食事に対する意識		大いにある	ふつう	↓

血清アルブミン値は、3か月前と直近の両時点のデータが1.0~8.0の範囲内の場合に、変化を矢印で表示しています。

【メモ欄】（事業所内で解釈や考えられる要因などについて議論を行った内容を記載する場合にお使いください。）

■多職種による栄養ケアの課題

実施日		3か月前：	2022/1/5	直近：	2022/4/5	変化
口腔関係	口腔関係	口腔衛生	有り	無し	↑	
		摂食・嚥下	無し	無し	→	
	安定した正しい姿勢が自分で取れない		無し	無し	→	
	食事に集中することができない		無し	無し	→	
	食事中に傾眠や意識混濁がある		無し	無し	→	
	歯（義歯）のない状態で食事をしている		無し	無し	→	
	食べ物を口腔内に溜め込む		無し	無し	→	
	固形の食べ物を咀嚼中にむせる		有り	無し	↑	
	食後、頬の内側や口腔内に残渣がある		無し	無し	→	
	水分でむせる		無し	無し	→	
	食事中、食後に咳をすることがある		無し	無し	→	
	その他	褥瘡・生活機能関係	褥瘡（再掲）	有り	無し	↑
生活機能低下			有り	無し	↑	
消化器官関係		嘔気・嘔吐	無し	無し	→	
		下痢	無し	無し	→	
		便秘	有り	無し	↑	
水分関係		浮腫	無し	有り	↓	
		脱水	無し	無し	→	
代謝関係		感染	無し	無し	→	
		発熱	無し	無し	→	
心理・精神・認知症関係		閉じこもり	有り	無し	↑	
		うつ	有り	無し	↑	
		認知症	有り	有り	→	
医薬品	薬の影響	有り	有り	→		

【メモ欄】（事業所内で解釈や考えられる要因などについて議論を行った内容を記載する場合にお使いください。）

■ 総合評価

実施日	3か月前： 2022/1/5	直近： 2022/4/5	変化
総合評価	改善傾向	改善	↑
計画変更（※）	無し	無し	

※施設サービスのみ必須

【メモ欄】（事業所内で解釈や考えられる要因などについて議論を行った内容を記載する場合にお使いください。）

<低栄養状態のリスクの判断>

全ての項目が低リスクに該当する場合には、「低リスク」と判断します。高リスクにひとつでも該当する項目があれば「高リスク」と判断します。それ以外の場合は「中リスク」と判断します。

BMI、食事摂取量、栄養補給法については、その程度や個々人の状態等により、低栄養状態のリスクは異なることが考えられるため、対象者個々の程度や状態等に応じて判断し、「高リスク」と判断される場合もあります。

リスク分類	低リスク	中リスク	高リスク
BMI	18.5～29.9	18.5 未満	
体重減少率	変化なし (減少3%未満)	1か月に3～5%未満 3か月に3～7.5%未満 6か月に3～10%未満	1か月に5%以上 3か月に7.5%以上 6か月に10%以上
血清アルブミン値	3.6g/dl 以上	3.0～3.5g/dl	3.0g/dl 未満
食事摂取量	76～100%	75%以下	
栄養補給法		経腸栄養法 静脈栄養法	
褥瘡			褥瘡

<食事の形態>

【出典】一般社団法人 日本摂食嚥下リハビリテーション学会「嚥下調整食学会分類2021」

コード	名称	形態
0	j 嚥下訓練食品 0j	均質で、付着性・凝集性・かたさに配慮したゼリー 離水が少なく、スライス状にすくうことが可能なもの
	t 嚥下訓練食品 0t	均質で、付着性・凝集性・かたさに配慮したとろみ水 (原則的には、中間のとろみあるいは濃いとろみ* のどちらかが適している)
1	j 嚥下調整食 1j	均質で、付着性、凝集性、かたさ、 離水に配慮したゼリー・プリン・ムース状のもの
2	1 嚥下調整食 2-1	ピューレ・ペースト・ミキサー食など、均質でなめらかで、べたつかず、 まとまりやすいもの スプーンですくって食べることが可能なもの
	2 嚥下調整食 2-2	ピューレ・ペースト・ミキサー食などで、べたつかず、 まとまりやすいもので不均質なものも含む スプーンですくって食べることが可能なもの
3	嚥下調整食 3	形はあるが、押しつぶしが容易、食塊形成や移送が容易、 咽頭でばらけず嚥下しやすいように配慮されたもの 多量の離水がない
4	嚥下調整食 4	かたさ・ばらけやすさ・貼りつきやすさなどのないもの 箸やスプーンで切れるやわらかさ

* 上記 0t の「中間のとろみ・濃いとろみ」については、学会分類 2021（とろみ）を参照してください。